

## ウルトラマン・テケブ

奄美市立手花部小学校 二年 山岡 しゅんすけ

ぼくがいた手花部ほいくしよには、ぼくのお父さんが作った、大きなウルトラマンの顔がおいてあるんだ。どれくらい大きいかというと、顔の長さはおへやの天井よりとどくくらいもあって、顔のはばは、ぼくとひろきくんがりよう手を広げてつないだくらい。立体てきに作ってあって、とつてもかっこいいんだよ。お父さんが、いろんなしりょうをもとにして、本もののウルトラマンと同じサイズにしたんだって。ほいくしよのお友だちと色ぬりを手つだったよ。みんなウルトラマンが大好きで、お昼ねの時間は、ウルトラマンといっしょのへやでねていたんだ。

どうしてお父さんがみんなにウルトラマンをプレゼントしたかというと、子どもたちがウルトラマンみたいにでっかく、元気にそだってほしいのと、びょう気になった時は、まけずにたたかってほしいといういをこめたからなんだ。

でも、ちかごろぼくは、こう考えるようになったんだ。きつと、ぼくのお父さんはウルトラマンのなかまなんじゃないかって。きつとそうだ。ぼくのお父さん

は、手花部をまもるウルトラマン・テケブなんだ。

ウルトラマン・テケブは、大きくて、力もちで、ぼくのことをすぐく大じにしてくれるんだ。お母さんがいない時には、りょうりだつて作るよ。ふわふわオムライスやソーセイジいっぱいスパゲッティを食べると、元氣もりもりになるよ。ぼくのべんきょうも見てくれるよ。分からなくなると、

「しゅん、ここまちがつてると。」

と、やさしく教えてくれるんだ。ぼくがやりたいことにも、どんどんチャレンジさせてくれる。テレビで空手のし合を見て、

「ぼくも空手をやってみたい。」

つて言つたら、すぐに道場につれていってくれた。かたやわざなど、ぼくがじょうずにできるようになら、いっぱいいっぱいほめてくれるんだよ。

きびしい時もある。ぼくがすききらいをしたり、はしのもち方がわるかったりすると、ものすごくしかられるよ。でも、そのおかげで、きらいだったトマトが食べられるようになったんだ。

ウルトラマン・テケブは、手花部のみんなのことも大じにするよ。いろんな行じに出たり、アイディアをたくさん出したりするよ。子ども会の会長もしていて、みんなが楽しめるデイキャンプや六月どうなどの行じ

をさばくっているんだ。

ぼくたちのクラスの目ひょうを考えたのもウルトラマン・テケブ。みんなが太ようみたいにぼかぼかになるようにって、「しめぬティダン（奄美の太陽）」とつけてくれた。

「ワンは、手花部がすきだから、手花部のためにできるところは何でもする。」

がテケブの口ぐせ。そんなウルトラマン・テケブを、かっこいいなあと思っっているんだ。

でも、テケブには、ほかのウルトラマンとはちがうところが二つある。

一つ目は、ほかのウルトラマンは、かいじゅうとたたかってたてものをこわしちゃうことがあるけど、ウルトラマン・テケブは大工さんなので、たてものをいっぱいつくるよ。だから、ウルトラマンよりえらいんだ。テケブがたてた家は、大きくて広くて、こんな家にすんでみたいなあと思っただよ。手花部のほいくしよや小学校にも、テケブが作ったものがいくつもある。ぜんぶ、ぼくの自まんなんだ。

二つ目は、ウルトラマン・テケブはなき虫なんだ。ぼくが空手でゆうしようした時、

「おとうさん、一番になったよ。」  
って言ったたら、

「おおつ、よかったやあ、しゅんすけ、すごいやあ。」  
と、大よろこびしながら、なみだをふいていたんだ。  
かんどうすると、人前でもいっぱいないてる。なき虫のウルトラマンだけど、そんなところもかっこいいな。  
ぼくはきめたんだ。いつかお父さんみたいに、かっこよくて、やさしくて、みんなのためにわらったりないたりできる、ウルトラマン・シュンスケになるって。  
そして、お父さんといっしょに手花部のことをまもるんだ。

